

鹿児島大学 男女共同参画推進センター

Newsletter

Vol.25 2020.3

編集•発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
TEL 099-285-3012 E-mail: gender@kuas,kagoshima-u,ac,jp https://www.kagoshima-u,ac,jp/atsuhime/

■ご挨拶 男女共同参画推進センター副センター長 渡部 由香 (農水獣医学域農学系 准教授) 男女共同参画推進センターではワーク・ライフ・バランス支援、研究者支援、次世代育成支援等の事業を行っています。本年度の次世代育成支援区分では、共通教育科目「男女共同参画社会」、出前授業「研究者への道」を実施しました。これらの事業は、多くの先生方と学外の方々のご尽力、ご協力により実施することができました。厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの上陸に伴い、休校措置等で、家庭、職場での混乱が生じている中、子育て世代の 方々や介護等が必要なご家族をお持ちの方々は、特に様々な不都合が生じているのではないかと案じております。 当センターが運用している研究支援員制度や保育支援制度等を多くの方が利用しておられ、両立支援の必要性を 実感しておりますとともに、いつもとは違うこの経験を、今後のより良い社会の仕組みに繋げるために男女共同参 画の推進の必要性を思います。新型コロナウイルスの一日も早い収束を願いますとともに、今後もご協力をどうぞ よろしくお願いいたします。

■取組紹介

研究支援員制度

本学は、妊娠、育児、介護・看病等期の本学の研究者に研究支援員を配置し、研究者としてのキャリア継続を支援しています。令和元年度の支援人数は38人(前期/8~9月/18人、後期/10~3月/20人)、平成23年度の制度運用開始以来最多となり、延べ45人の研究支援員を配置しました。報告書には以下のようなコメントがありました。

- 子どもを持つ前に想像していたより、キャリア継続や形成は難しく、学生指導や他業務等により平日の研究時間の確保が困難であったため、研究支援員の研究データ整理により研究の主要な部分に集中できた。
- 自身の手が足りない部分への支援となり、共同研究に進展する一助となっている。

令和2年度も運用を予定しています。詳細は、当センターホームページでご確認ください(前期の募集は終了しました)。

ジェンダーバイアス低減策

リーフレットの配布及びアンケートの実施

男女共同参画推進センターは、全教職員へのリーフレット「無意識のバイアス-Unconscious Bias-を知っていますか?」(男女共同参画学協会連絡会)の配布をしています。本年度は、その影響度について調査することを目的にWEBアンケート(調査機関:令和元年10月末~11月末)を実施し、929人から回答がありました。

「リーフレットで参考になった項目はどれですか」(複数回答)について、約70%の人が「無意識のバイアスの具体例」と回答しています。「リーフレットの熟読は、あなたの「無意識のバイアス」の意識化に影響しましたか」について、「とても影響した」9%、「ある程度影響した」68%、「あまり影響しなかった」18%、「影響しなかった」5%との回答でした。「熟読後、あなたの言動において、無意識のバイアスを意識した変化がありますか」について、「とても変化した」3%、「ある程度変化した」56%、「あまり変化しなかった」34%、「変化しなかった」7%と回答、「とても変化した」「ある程度変化した」と回答した人において、「どのような状況で変化したのですか。」(複数回答)の問いには、「相手の立場や状況に対する自分の思い込みや決めつけがあることを意識できるようになった」67%、「女性は~、男性は~、という性別への先入観があることを意識して言動するようになった」43%、「性別以外の属性(職業、学歴、人種、家庭での役割等)への先入観を意識して言動するようになった」35%、「日常の出来事に「無意識のバイアス」の影響を感じることが多くなった」25%との回答でした。また、「変化しなかった」、「あまり変化しなかった」と回答した人のうち半数が、「リーフレット配布前から無意識のバイアスを意識していた」と回答しています。

アンケート結果から、無意識のバイアスの意識化や自分の言動の変化など、ジェンダーバイアス低減につながっていることが分かりました。今後もリーフレットの配布を継続していくこととしています。

教員採用・昇任選考時のジェンダーバイアス低減

本学は、女性活躍推進法一般事業主行動計画において、「教育職採用者に占める女性割合30%以上」の数値目標を掲げており、この達成へ寄与するものとして、昨年度の試行実施を経て、採用・昇任選考にあたる教員は、令和元年11月より、研究者採用ガイド「ダイバーシティの観点からの研究者採用を実施するために」(北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議)を事前に熟読の上選考にあたること、事後は、学長への選考経過報告書等にその旨を記載することを全部局等に義務付けました。

保育支援制度

本学に勤務する教職員(本学社会保険加入者に限る) が、土日祝日の勤務や子の病気等により、緊急かつやむ を得ず、通常利用しているサービス以外の保育サービス を利用した際の利用費の一部を補助する制度(1回 1,200円、月上限4回、1世帯上限年間36,000円)で す。令和元年度の利用者は30人、利用回数は115回(2 務等に従事する教職員(非常勤職員を含む)に対し、休 月末時点)、病児保育サービス利用がその多くを占めて 日勤務日の保育支援を実施し、学内保育施設「さっつん おり、利用者からは、「家族や親戚が遠方に住んでいる 保育園」で、延べ7人の子どもたちが過ごしました。

ため、急な子どもの病気への家族のサポートが困難であ る。子の看護休暇もあるが、休めないときがあるため病 児保育を利用している。補助があり、大学のサポートを 実感できる」などの声がありました。

大学入試センター試験時保育支援

令和2年1月18・19日に、大学入試センター試験の業

交流会

キャリア継続やキャリア形成の支援を目的に、様々な部局の職員・大学院生等 間で気軽に語り合う場として交流会を開催しています。本年度は、4回開催しまし た。4月は新任教員の着任後の新しい環境への困惑に対し、メンターからアドバイ スがありました。6月は「無意識のバイアスとキャリア形成」のミニレクチャー後 🏾 に意見交換をしました。参加した大学院生から「今後の様々な選択の際の参考に なる」との感想がありました。10月は「妊娠・育児との両立」をテーマに意見交



換し、「学会時の子の帯同や県外家族のサポートの旅費負担が大きい」との悩みや、「本学で開催される学会では 小学生までの一時保育がほしい」「本県出身者ばかりではない職員においては離れた土地での介護や単身での育児 という視点が必要」などが出されました。11月は「キャリア形成とライフイベント」をテーマに、ライフライン チャートを活用して経験を語り合いながら、妊娠中や産後の家族との家事分担と仕事の両立等についての情報交換 ができました。交流会で出された意見は、支援の見直し等の際の参考にすることとしています。

また、本年度は、学系での交流会が、2月末現在で、14学系中10学系で20回開催されました。新型コロナウイ ルス等により、3月開催を中止せざるを得ない学系もありましたが、「環境整備や支援等への意見が聞けたことな どから今後も継続していきたい」との意見が多く出されています。

メンター制度

一定の職務経験等を有する本学の教員等が、所属部局や専門の枠を超えて、本学の研究者や大学院生のキャリア 形成上の相談に応じる制度です。令和元年度は、新規に10人(女性7男性3)のメンター登録があり、106人(女 性57男性49)となりました。メンターリスト及び担当可能な相談項目は、センターホームページで閲覧(学内専 用)でき、メンティが制度を利用するにあたって参照できるようにしています。本年度は、1件の制度利用申込み があり、メンタリングが実施されました。制度利用申込みによる利用実績は少ないですが、メンターとの交流機会 である交流会で、「メンターが披露する経験談が参考になった」「メンターの存在が身近に感じられ、今後つな がっていきたい」などの感想があり、自分のキャリア形成の参考となる話を聞きたいなどと思っている本学の研究 者や大学院生がおられましたら、本制度をご利用ください。

また、メンターを随時募集しています。メンターに登録してもよいと思われる本学の研究者がおられましたら、 当センターまでご連絡ください。

共通教育科目「男女共同参画社会」 *公開授業提供科目

共生社会、特に性別に関わらずその個性と能力を発揮できる男女共同参画社会を実現するために、様々な領域に おける男女共同参画を考えることにより、多様性を尊重する意識の醸成を目的として、後期の共通教育科目に開講 し、学部1年生を中心に49人(公開授業受講者含む)が受講しました。

科目責任者の渡部由香准教授(男女共同参画推進センター副センター長)と、5人の担当教員によるオムニバス方



式で、脳科学、消費生活、憲法、国際関係、防災等の視点で男女共同参画を 考えました。また、本学附属図書館が国立女性教育会館から本科目補助教材 として借用した関連図書を紹介し合ったり、鹿児島市男女共同参画推進課や 地域包括支援センターのそれぞれの担当者からデートDVや高齢者への対応 などについての話を聞いたりしました。

授業まとめでは、渡部准教授から、少子高齢化社会における働き方改革や 女性活躍についての話がなされ、ワーク・ライフ・バランスのとれた将来の 生活や自己実現に向け、本科目での学びや自分の気づきを今後に活かし、男 女共同参画社会の実現に向け活躍してほしいとの期待が伝えられました。

授業終了後レポートには、「自分にも男だから女だからの意識があった」との気づきとともに、「気づいたこと を意識に変えて生活し、男女の本当の平等を実現できるようにしていきたい」との行動に変えるきっかけと なったことや、「女性だけをどうにかしようとするのではなくて、男女ともに声を上げて生き方や社会を変え ていくべき」などの提案もありました。

授業をとおして、他者と自分の考え方やあり方の違いを理解し、時に他者のことをジブンゴトとして捉え、 多様な視点から社会との関わり方を考える経験となり、性別に関わらず、個性と能力を発揮できる社会作りへ の行動につながっています。令和2年度も後期に開講することを予定しています。

演田 百合子 共同学系 環境安全センター 助教



2010年3月 鹿児島大学大学院理工学研究科生命物質システム専攻

博士後期課程单位取得退学

2010年4月 鹿児島大学廃液処理室 特任助教

2010年9月 鹿児島大学大学院理工学研究科博士(理学)取得

2015年4月 鹿児島大学学術研究院学内共同教育研究学域学内共同

教育研究学系 廃液処理センター 助教(改組)

鹿児島大学学術研究院総合科学域共同学系 研究推進機構 2017年4月

研究支援センター 環境保全施設 助教(改組)

2019年4月 組織改組により現職

☆研究のテーマは何ですか?

学生時代から大気中水銀のバイオモニタリング(生体に 蓄積した水銀量と大気中水銀濃度との関係性を利用した 大気中水銀レベルの長期的評価)方法に関する研究を続 けています。もともと生き物と環境とのかかわりについ て研究したいという思いがあったので、この研究テーマ は自分のライフワークだと思っています。"水銀"とい う特殊な物質をターゲットにしたため、水銀の環境動態 や分析法に係る研究も行っています。水銀廃液の減容化 に関する研究や、実験排水管理に関する研究など、所属 する環境安全センターの業務に関連した研究も行なって います。

☆研究者を目指した理由を教えてください。

新しい発見や問題の解決に魅力を感じ、研究者を目指し をする」を積み重ねて進めています。育児がひと段落す ました。



国際学会(2015年 韓国)

て聞くことができた。

☆モットーは何ですか? 「変化を楽しむ」です。

☆研究の上で苦労されたことはあ りますか?

私には現在3歳と0歳の子供がいま

す。育児と研究の両立はなかなか難し 通勤時の様子 いのですが、家族や職場の人々の協力と理解を得、学内 の保育園や研究支援員制度などを利用して乗り切ってい ます。妊娠前は一日12時間以上研究室にいることが普 通で、学会や調査のために国内出張を年10回ほど、海 外出張にも年2~3回行っていましたが、出産後は、研 究時間は半分に、出張は国内のみで年3回程度に減りま した。研究活動は中断したくないので、「今できること

たいな…」とこっそり夢を膨らませています。

水銀研究の第一人者であるミレナ・ ☆これから研究者を目指そうとする人へのメッセージ <u>ホルバット氏 (左から2人目) か</u> 学生のうちは幅広くいろいろな知識を吸収し、体験する *5、研究者を目指すきっかけについ* ようにしてください。そして、やりたいことがあるな ら、まずはチャレンジしてみてください。

るであろう10年後、20年後には「こんな研究をしてみ

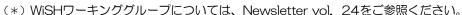
■学系における男女共同参画の推進

「共同学系の現状と学内共同教育研究施設としての取り組み」

共同学系長 橋口 知(附属図書館長、教育学系 教授)

共同学系は、附属図書館、保健管理センター、稲盛アカデミー、総合研究博物館、学術情報基盤センター、埋蔵 文化財調査センター、環境安全センターの7つの学内共同教育研究施設で構成されています。2019年10月1日付 では専任教員16人中女性5人(31.3%)で、いずれも男性の特任教員3人と研究員1人を加えた研究者20人を母数 にすると女性研究者比率は25.0%です。各施設で業務内容が大きく異なっており、また、教員以外の専門的な職務 に比較的多くの女性職員が従事している施設もあることから、それぞれの実情に応じて方針を立てて男女共同参画 を推進しているというのが現状です。

学内共同教育研究施設としては、学生や教職員が活用する施設としての特性から、 大学全体の男女共同参画推進に取り組んでいます。例えば、保健管理センターは、医 師の診療だけなく、心理相談においても他学系教員の協力も得て男性でも女性でも担 当可能な体制を整えています。稲盛アカデミーでは、2017年度は育児等に係る特別 な必要性のある女性教職員が個室空間を利用できるよう条件整備を行い、2018年度 は若手・女性研究者支援として鹿児島大学Women in Science for Health (WiSH) 研究推進ワーキンググループ(*)に活動スペースを提供しています。附属図書館は、 男女共同参画推進センターと協働して、国及び県の男女共同参画週間中にポスターを 展示したり、国立女性教育会館から借用した関連図書を展示・貸出したりしていま す。今後も各施設の特徴を活かして、本学の男女共同参画推進に取り組んでいく予定 です。





附属図書館 国立女性教育会館の関連図書の展示の様子



■学内連携

JST女子中高生の理系進路選択支援プログラム

*JST:国立研究開発法人科学技術振興機構

本学は、JST女子中高生の理系進路選択支援プログラムにより、平成30年度と令和元年度の2年間「かごしま ☆科学のタネまき塾~育て!未来の理系女子~」を鹿児島県教育委員会と共同実施しました。

令和2年1月12日に開催された「女子中高生のための理系進路選択プログラム全体報告会」で、実施主担当部局の加藤太一郎助教(理学部)から、各企画(写真参照)への参加者の満足度の高さや理系への進路選択の意識につながったこと等の報告がありました。また、2月5日に、岡村浩昭理学部長や実施担当者、協力企業担当者等との本プログラム全体会議が本学理学部会議室で開催されました。

いずれの会でも、理系への進路選択への意識啓発には、進路選択の意識の薄い段階の中学生及び進路への影響を及ぼすとされる保護者や教員への働き掛けの必要性が出され、今後の取組に反映させていくこととしています。

***** プログラムの様子等 *****







科学体験塾サテライト 手作りフィメの化学



理系見学会 女性航海士の職場



進路相談会



ロールモデルポスター Vol.5女性研究者紹介部分

女性研究者•若手研究者支援制度等説明会 (医嫩学総合研究科研究戦略会議主催)

令和元年12月9日に医歯学総合研究科会議室で開催され、女性研究者や研究員、大学院生等16人の参加がありました。はじめに、戦略会議議長の橋口照人教授(医歯学総合研究科副研究科長)から挨拶があり、男女共同参画推進センター、URAセンター、グローバルセンターの担当者から、両立、研究、海外留学等に係る支援制度、研究費助成等の情報提供を行いました。また、大学院生の支援制度等についてまとめた資料も、3センターで作成し提供しました。



■地域連携

鹿児島県 女性活躍推進フォーラム

令和元年11月21日に鹿児島県女性活躍推進フォーラムが開催され、本学からは男女共同参画推進センターの渡部由香副センター長とコーディネータ、総務部人事課男女共同参画企画係長が参加しました。

フォーラムでは、県知事挨拶、令和元年度女性活躍推進優良企業表彰及び表彰企業事例発表、小室淑恵氏(株式会社ワーク・ライフバランス代表取締役社長)による基調講演「経営戦略としての女性活躍」がありました。

小室氏からは、家庭を持つものだけでなく独身者等も含めた全従業員を対象とした施策による組織全体の働き方を見直すことが業績のプラスにつながること、人口オーナス期(*)の経済発展には、多様な人材の活用が必要なこと、さらに第2子以降の出生状況と夫の育児参加時間の相関関係があることや目覚めてから13時間以内という人間の集中力についての研究結果等から、長時間労働の是正や時間内で成果を上げることへの評価の見直しなどの働き方改革を行い、男女ともに働きやすい環境整備を行うことが少子化対策と女性活躍に有効であるとの話がありました。講演後に参加者による情報交換会も開催されました。

(*) 働く人より支えられる人が多くなり、人口構造が経済の重荷に なる時期

鹿児島市 サンエールフェスタ2020

サンエールフェスタ2020が令和2年1月18日から1月26日まで開催され、展示ブースで本学の男女共同参画推進の取組をポスター等で紹介しました。また、鹿児島県内大学等男女共同参画連携会議により作成した県内高等教育機関(11機関)の男女共同参画推進の取組ポスターも展示(下写真)、県内高等教育機関の男女共同参画に係る連携を紹介する機会ともなりました。

サンエールかごしまは、鹿児島市の生涯学習と男女共同参画の拠点施設で、フェスタ期間中には、基調講演の他、様々な市民参加型企画が開催され、8,894人(*)の来場者がありました。

(*) 鹿児島市男女共同参画推進課より情報提供



Information

研究支援員制度:令和2年度前期の申請は3月19日に締め切りました。

*育児休業等からの復帰の際に利用できる支援制度もあります。お気軽にお問い合わせください。

新任教員とメンターとの交流会

例年4月上旬に開催しておりましたが、令和2年度は、新型コロナウイルスの国内感染拡大の状況を鑑み、5月以降に延期いたします。

*着任間もない方で、支援制度等について知りたいなどありましたら、お気軽にお問い合わせください。

